

決算審査特別委員会（議長、議会選出の監査委員を除く20人の議員で構成、委員長は萩野茂男議員、副委員長は織笠孝之議員）は、決算9件の議案について付託を受けて4日間の審議を行いました。

審議の結果、一般会計ほか8会計を全会一致で認定しました。

市税の収納率について

問 滞納額は17年度から21年度まで右方上がりで増え、収納率は20年度までは90%を超えていたものが21年度は90%を割って88・69%となったが要因は。

答 平成20年度下期からの厳しい経済情勢下で、雇用悪化の影響が大きい。納税相談では売り上げの伸び悩み、離職や給与の低迷等で納付困難な事例がある。徴収対策については、分割納付も実施しているが、うまく履行されない場合、財産の差し押さえの強制処分もある。迅速に処理し円滑に進めていく中で、収納技術のノウハウが充分なのか課題もあり、収納率が下がっていると考えられる。

問 議論しても実行に移されず、市政運営に支障も来ているのではないか、今後の滞納対策は。

答 岩手県滞納整備機構に加入しており、困難な事例、多額なものは県に移管・引き継ぎしているケースもあり、移管を予告し滞納者に周知している場合もある。また、職員のスキルアップも課題

有害鳥獣駆除対策について

問 遠野市外に転出される。ニホンジカの駆除は冬場がメインで、銃による駆除が主体となるが、今後は、以外の季節でも捕獲できるくくり罠の免許取得を広めたい。

問 ニホンジカの囲い罠の成果はどうなっているのか。

答 上郷町と土淵町にニホンジカの囲い罠を設置したが、2年間やってみて、広さを十分確保できないために成果はあがっていない。

問 年間にして105頭程度のニホンジカ捕獲実績では全く足りないのではないか。

答 有害駆除は広域圏での取り組みが必要であ

る。ニホンジカの駆除は冬場がメインで、銃による駆除が主体となるが、今後は、以外の季節でも捕獲できるくくり罠の免許取得を広めたい。

問 有害鳥獣による被害は遠野市で年間1億円にものぼっている。市民と野生生物が共存していくためには地域に特化した有害駆除のリーダー育成が必要である。また、ツキノワグマについては人命にかかわるため、迅速な駆除許可が必要であるが1週間もかかるのが状況である。今後どう対応していくのか。

答 有害駆除のリーダー育成については、遠野市の課題と受け止めている。猟友会はじめ、地域の方々にも参加していただきながら、研修会等通じて進めて参りたい。特に、銃、罠の資格取得及び更新への補助を実施する。また、有害駆除の迅



高齢者等貸付牛基金について

問 貸付期間が満了となり、未償還となっている貸付金および戸数と頭数は。

答 未償還額は21年度末で27頭で、金額は1,034万円余りで、戸数は22戸となっている。

問 家畜導入事業債権管理委員会に、債務者への

速な対応のため、駆除許可を市町村段階でもできるよう要望していきたい。